

ルーマニアとの今後の交流のあり方を考える 市民懇談会（第2回）

平成18年1月17日（火）
武蔵野総合体育館 視聴覚室

次 第

- 1 送付資料説明
- 2 議事：「これまでの交流の評価について」
意見交換
- 3 その他
 - （1）市民意見受付状況
 - （2）今後の日程
 - （3）事務局からの事務連絡

平成 18 年 1 月 17 日
ルーマニア市民懇談会資料

ルーマニアとの交流予算（平成 17 年度）

(1)交流事業費

嘱託職員 1 名（日本語教師）の報酬・共済費・報償金	3,987 千円
所長・日本語教師の一時帰国等の旅費	1,000 千円
所長・日本語教師の海外旅行傷害保険料	335 千円
日本武蔵野センター建物賃借料	5,394 千円
日本武蔵野センター運営費補助金	2,797 千円
その他（郵便料、図書購入費、消耗品費等）	330 千円
計	13,843 千円

(2)中高年齢者・障害者雇用創出事業経費

嘱託職員 1 名（センター所長）の報酬・共済費・報償金	約 4,000 千円
-----------------------------	------------

(1)(2)合わせて平成 17 年度予算額は、約 1780 万円

平成 16 年度 日本武蔵野センター 収支報告書

収 入

単位：円

費 目	金 額	備 考
1 市補助金	2,563,000	日本武蔵野センター運営費補助金
2 繰越金	219,358	前年度繰越金
3 雑収入	5,816	預金利子
計 (A)	2,788,174	

支 出

単位：円

費 目	金 額	備 考	
1 人件費	1,839,732	常勤職員(1名)給料 顧問弁護士、会計士、パートタイム職員報酬	
2 管理費	188,132	管理用消耗品他管理経費	
3 事業費	234,765		
内 訳	謝礼金	19,600	通訳謝礼他
	消耗品費	37,956	日本語教室・イベント用消耗品
	印刷製本費	4,044	イベントポスター他
	会議費	58,522	イベント協力者賄他
	通信・交通費	59,481	郵便料、電車・タクシー代他
	什器備品購入費	36,413	パソコンソフト他
	雑費	18,749	ホール使用料、広告費
計 (B)	2,262,629		
次年度繰越 (A - B)	525,545		

平成 18 年 1 月 17 日
ルーマニア市民懇談会資料

ブラショフ市での日本語教室

94 年 (H 6) 2 月 9 月	モルズイ・ブラショフ市長が来日し、M I A 日本語教室を視察。ブラショフ市での日本語教室開催を要請。 日本語教室に関する協定締結
95 年 (H 7) 6.19 ~ 9.15	第 1 回日本語教室 M I A 日本語交流員 2 名派遣 初心者クラス 17 名、既習者クラス 22 名 * 参加費 40,000 レイ (初心者) 30,000 レイ (既習者)
96 年 (H 8) 6.17 ~ 8.26	第 2 回日本語教室 M I A 日本語交流員 2 名派遣 初心者クラス 24 名、既習者クラス 14 名 * 参加費無料
96 年 (H 8) 6.24 ~ 8.22	第 1 回日本語教室修了者招聘 招聘人数 3 名 (市が招聘) 研修生の受入 (M I A)
97 年 (H 9) 6.16 ~ 9.1	第 3 回日本語教室 M I A 日本語交流員 2 名派遣 初心者クラス 22 名、既習者クラス 21 名 * 参加費無料
97 年 (H 9) 6.26 ~ 8.20	第 2 回日本語教室修了者招聘 招聘人数 3 名 (市が招聘) 研修生の受入 (M I A)
98 年 (H 10) 6.15 ~ 7.30	第 3 回日本語教室修了者招聘 招聘人数 3 名 (市が招聘) 研修生の受入 (M I A)
99 年 (H 11) ~ 03 年 (H 15)	J I C A から派遣された海外青年協力隊員が日本語教室開催 (日本武蔵野センターは場所提供、図書提供等援助)
00 年 (H 12) ~	武蔵野ブラショフ市民の会が研修生招聘 (毎年 1 名)
02 年 (H 14 年) 7.15 ~ 8.25	市制施行 55 周年・交流 10 周年記念事業として、M I A 日本語交流員 2 名派遣 中級クラス 12 名、上級クラス 7 名 * 参加費無料
03 年 (H 15 年) 11.1 ~	市が日本武蔵野センター職員として日本語教師 (嘱託職員) を採用し、センターの事業として日本語教室開催 (センター所長も日本語教室を担当) * 参加者数は別紙「日本語クラス参加者数」のとおり

日本語クラス参加者数

< 2003年度 日本語クラス参加者数 >

JICA職員による日本語クラスを11年半ばから引き継いで実施

12月：(初級1) 16名 (初級2) 15名 (中級1) 6名 (中級2) 6名 (上級) 3名

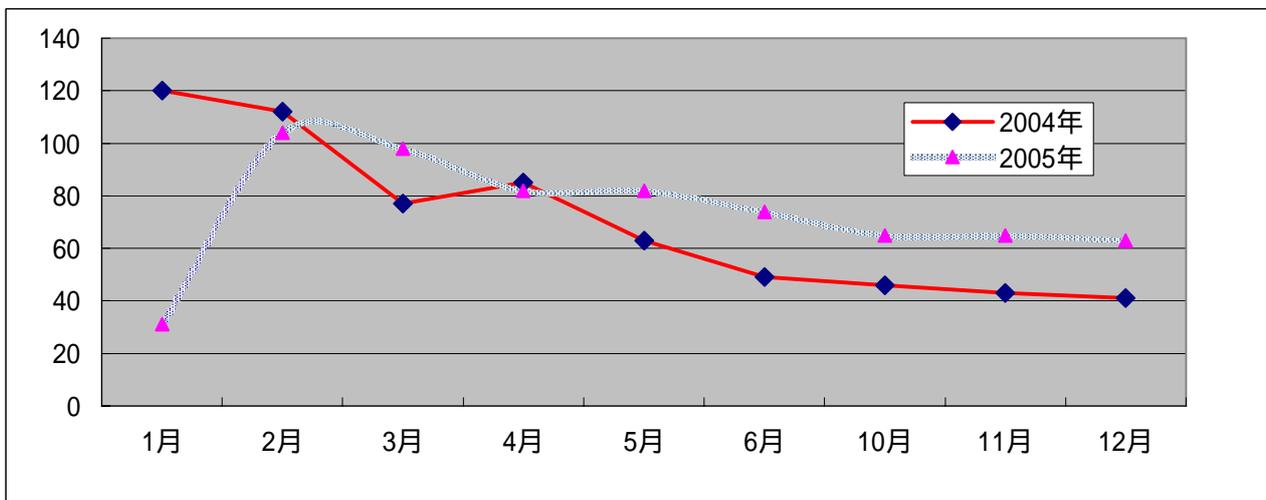
< 2004年度 日本語クラス参加者数(平均) >

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	10月	11月	12月
101(3 クラス) 初	91	80	50	61	41	30	29	24	22
102	4	6	4	5	3	4	4	3	4
103	9	8	7	6	6	5	4	5	5
201 中級	3	5	5	3	4	4	2	2	1
202	6	6	5	5	4	2	4	6	6
401 上級	2	2	2	2	1	1	1	1	1
402	5	5	4	3	4	3	2	2	2
合計	120	112	77	85	63	49	46	43	41

< 2005年度 日本語クラス参加者数(平均) >

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	10月	11月	12月
101(3 クラス) 初	(#)	69	67	55	39	32	25	24	23
102(2 クラス)	14	17	15	15	14	14	12	15	15
103	4	4	3	4	4	5	3	4	3
201 中級	5	6	6	5	3	5	5	4	5
202	5	4	3					--	
401 上級	1	1	1	1	1	1		-	
402	2	3	3	2	2	2	4	3	4
漢字クラス					19	15	16	15	13
合計	31	104	98	82	82	74	65	65	63

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	10月	11月	12月
2003年									46
2004年	120	112	77	85	63	49	46	43	41
2005年	31	104	98	82	82	74	65	65	63
2006年									



第2回ルーマニアとの今後の交流のあり方を考える市民懇談会 会議要録

日 時：平成18年1月17日（火） 午後7時～8時30分

場 所：総合体育館3階 視聴覚室

出席者：石光委員・大隅委員・河北委員・竹島委員・原委員・
横尾委員・頼委員（五十音順）
事務局3名

1 送付資料説明

<事務局説明>

2 議事：「これまでの交流の評価について」

【委員長】今後の交流のあり方を考える上において、これまでの交流の評価について意見交換したい。どのような視点で評価していくのかそれぞれ考えがあると思うので、各委員の意見を伺いたい。

【委員】前回の資料において国際交流の記載がいろいろあったが、アメリカ合衆国ラボック市や中国との交流評価についてもこのような検討をしたのか。

【事務局】国際交流施策検討懇談会にて、市の行っている交流の全体の評価を学識経験者に検討をしていただいたが、ラボック市、中国との個別の交流について、その報告書の内容以上につつまんだ評価はしていない。第四期基本構想・長期計画にも簡単な記載はあるが、個別の具体的な評価はない。

【委員】前回の資料で市の交流に対する姿勢は理解した。ブラショフ市との交流はルーマニア国立ジョルジュ・ディマ交響楽団指揮者の曾我氏の橋渡しがあって始まったとのことではよかったか。

【事務局】そうだ。

【委員】日本語クラス参加者数の資料をみて、モチベーションを高めることが重要であると感じた。学習してよかったと思えば、人を連れてくると思う。また、外国語を学ぶ上で、人との結びつきが大切なので、文通などがあればいいと思う。

【委員】今までの市からの報告は、一方的なものが多かったように思う。日本語教室に参加したルーマニア人の声がない。日本語教室の参加者がなぜ減ったのか、辞めてしまう人は大人なのか子どもなのか、直接声を聞くことが大切だ。私は、北欧に旅行した時、日本の漫画で片言の日本語を覚えた子どもに会った経験があり、若い人の力を思い知らされた。各クラスにおいて現場の声を探ることが大切ではないか。そういうことをリサーチしてはいかがか。

【委員】日本語クラスの参加者は、社会人もいるがほとんどが大学生、そして女性だ。平均20歳くらいだったと思う。だから小学生はほとんどいない。モチベーションについて

は、東南アジアやアメリカなどとは違う。ルーマニアにおいては、日本語を学んだところで就職につながるわけではない。なぜ学ぶのかは、好奇心があるからだ。特にルーマニアでは漫画がない。日本の漫画はルーマニアだけでなく、世界中で人気があり、ブラショフの日本武蔵野センターにも漫画教室があった。日本語教室の生徒が減っていく理由は、ついていけなくなったり、関心がなくなったり、大学の授業の関係で時間が合わなくなったというのが多い。多くは黙って辞めていく。無料なので、生徒にとって辞めても痛手はない。

ルーマニアとの交流の評価については、切り口をはっきりさせ、連続性を持たせる必要がある。「日本武蔵野センターの機能・役割」「市民参加のプログラムという両国の交流」「日本語教室の成果」「経費は適切か」等の切り口が考えられる。

【委員】ルーマニア人が日本語を勉強するのは逆に、武蔵野市の人々がブラショフに関心を持てるような企画は考えられないか。例えば、武蔵野自由大学で社会人や主婦をターゲットにしたような取り組みはできないか。ルーマニアの家庭料理について学んだり、武蔵野市が力を入れている保育についてルーマニア人と情報交換、市民の交流の接点にすることはできないか。また、2007年の武蔵野市制60周年にあわせて、イベントを行うのもいいのではないか。日本にあるルーマニア政府観光局をもっと活用してはどうか。

【委員】資料をみる限り、ルーマニアブラショフ市での日本語教室の礎はしっかりできたと評価できるのではないか。その意味では、当初の課題は解決できたと思う。学習者の減少については、初級クラスが減っているが、初級者は途中で減るものなので、この減少率は問題ではないと思う。ただ、この10年間の武蔵野市からの経費はとても大きいものがある。それは、大いに効果を出したと思うが、これからは支援ばかりでなく、ある程度の受益者負担も考えてもいいのではないか。日本語教室の修了者のネットワークをつくって活用すべきでないか。日本武蔵野センターなどで修了者の力をもっと使うべきである。また、武蔵野市民にルーマニアへの理解を深めてもらい、市民が楽しめる交流を作り上げる必要がある。

【委員】ブラショフでは、日本武蔵野センターの認知度は低い。一部の裕福な家庭はともかく、一般の人々が夕方に日本語教室の授業を受ける余裕はない。受益者負担をどうするかについては悩んだが、ルーマニアの経済状況を考えて、導入しなかった。修了者のネットワークをつくることについては、若者は大学を卒業すると職を求めて都会や海外へ行ってしまうので、難しい面がある。

【委員】日本語教室を受講するにあたっては、受けたいと思う人の動機があるはずである。入学者に動機は聞いているのか。

【委員】当時はとっていた。

【委員】今までの受講者の名簿は財産であると思う。

【委員】名簿は、(日本語教師を市が派遣するようになって以降2年間の)最近のものしかないと思う。

【委員】(以前は武蔵野市国際交流協会でボランティアを派遣していたので、その当時の記録が)国際交流協会にあるのではないか。

【委員】市民にとってもルーマニアという未知の国と本市が交流しているのは、興味深いはずだ。今から交流を通じてルーマニア人と人的なグループをつくっておけば、将来の交流に有効にアレンジしていくと思う。本市の市民に向けては、マスコミを利用したり、デパートでのルーマニアフェアの開催などを通して、うまくPRしていけば、ルーマニアは市民から見ても魅力ある国、街だと思う。

【委員】本市が企画したルーマニア料理教室に参加したことがあるが、何かを見るだけでなく、参加したことがとても良かった。

【委員】料理教室というイベントはとてもいいと思うが、その後の広がりが無い。ラボック市との交流のように、感受性の豊かな思春期の子ども達の交流はできないか。子ども達が大人になっていくことで、広がりが出てくる。

【委員】ルーマニアの料理教室においても、ルーマニア人の講師や日本武蔵野センターの職員、武蔵野ブラショフ市民の会との出会いがあり、交流に広がりがあったと思う。

【委員】持続可能な交流が大切だと思う。イベントというのは、経費の割りにあまり効果がない。例えば、本市とブラショフ市の母親が保育のノウハウを共有するといった、何かの時にまた会いたいと思うような人間的つながりになるものがないと思う。その意味で、青少年の交流はいいと思う。

【委員】アメリカのラボック、ロシアのハバロフスクには青少年の交流があるが、ルーマニアにはなぜないのかというと、お金がないからだと思う。ルーマニアから日本への飛行機代だけでも厳しい。経済的なハンディキャップがかなりある。

【委員】日本に来なくても、日本の青少年がルーマニアに行くだけでもいいと思う。

【委員】ルーマニアでのホームステイは可能なのか。

【委員】一般の家庭において、受け入れることが出来るかどうかはわからない。

【委員】武蔵野市からブラショフ訪問はないのか。

【事務局】平成5年、7年、10年、14年に市民団を派遣した。

【委員】武蔵野市の補助で派遣しているのか。

【事務局】一部補助しているが、基本的に参加費は負担してもらっている。

【委員】日本語クラス参加者数の資料について、101から103のクラスはどんな違いがあるのか。

【委員】101は初めて日本語を学ぶ人のクラス、102は2年目の学習者というように分けている。初級クラスの減少率の高さについてだが、武蔵野市にある国際交流協会の日本語教室の減少率と比較するとかなり高い。これは、国際交流協会では、本市に住む外国人が生活のために日本語を学ぶという姿勢である一方、ルーマニアでは、興味本位で日本語教室に参加しているからではないか。

【委員】以前、ブラショフで日本の高校生と交流したいという希望があったにも関わらず、

日本側の協力校がなく、実現しなかったことがあった。当時は、日本の学校では海外との交流事業に協力する余裕はなく、インターネットなどのセキュリティーにも不安を抱いていたが、今なら交流する余裕があるのではないか。

【委員】以前、海外にて現地の人間と文通をしながら旅行することがあった。文通を通して旅行すると、普通に旅行するのとは刺激が違う。青少年にも文通をしてほしいし、そういう場をつくってほしい。

【委員】ネットを利用した公開授業などいいのではないか。

【委員】ルーマニアでは、パソコンの普及率は低いと思われる。

【委員】日本武蔵野センターが、武蔵野市内の大学への留学の窓口になるのはどうか。奨学金などを出すのもいいと思う。

【委員】ルーマニアとの交流に関しては、今まで武蔵野市民に知ってもらった事業が少なかったように思う。

【委員】ルーマニアとの交流をどのくらい知っているのか、市民にアンケートを取るのはいかがでしょうか。

【委員】市民団に参加した人たちが何かできないか。常に新しいメンバーが入ってくるような、そういう武蔵野市民の集いが必要だ。

【委員】ルーマニアを観光する日本人はどれくらいいるのか。

【委員】少ないが、日本人観光客を見たことはある。

【委員】ブラショフへの旅行者が、センター活動に飛び入り参加できるといい。また、センターで旅行者に宿等の情報提供ができないか。

【委員】武蔵野ブラショフ市民の会とはどのような組織なのか。

【委員】ルーマニア国立ジョルジュ・ディマ交響楽団をはじめに受け入れ、その後、毎年交流している組織だ。武蔵野市内でルーマニア語教室も開いている。

【委員】ルーマニア人は武蔵野市内に数名いるとのことだが、そういう人は武蔵野ブラショフ市民の会に関わっているのか。

【事務局】本日は、武蔵野ブラショフ市民の会の関係委員は欠席なので、次回、直接話してもらったらどうか。

【委員】ルーマニア人の体操選手、コマネチによる体操教室など開くのもいいと思う。

【委員】ルーマニア大使館は、武蔵野市のこうした活動を知っているのか。

【事務局】当然知っている。たまたまではあるが、本日もルーマニア大使が武蔵野市長を訪問して、交流についての話をした。

2 その他

【事務局】市民意見の受付状況について説明する。HPの会議要録について、責任を明確にするために発言した委員名を明記すべきとの意見があったがいかがか。

【委員】会議要録は全文を速記したものではなく、事務局にてまとめたものである。委員

名を載せるのであれば、発言者に確認が必要となり、会議要録の公表に時間がかかるのではないか。

【委員】委員名を載せると、発言に慎重になり、活発な議論がなされないのではないか。自由な発言がなされないと思う。

【委員長】それでは、会議要録に委員名は載せないこととしてよろしいか。

<異議なし>

【委員長】それでは第2回懇談会を終了する。次回は1月31日（火）、第4回目は2月28日（火）に午後7時から8時30分の日程で行いたい。